

I 『NAMの原理』改定版への序文(二〇一七年)

私は二〇〇〇年に『NAMの原理』を発表し、同時に、NAMの運動を開始したが、二〇〇二年に解散した。すなわち、個々のアソシエーションは存続し、その相互連絡を維持するとしても、それらを統合する組織(アソシエーションのアソシエーション)を断念したのである。そうすると、『NAMの原理』にあった組織原則は大幅に変更されなければならない。したがって、私は出版されていた『NAMの原理』を絶版にした。また、『NAMの原理』は組織的に承認されたものであったが、以後は、私個人の著作として改訂することにしてもらった。

私が解散と改訂を考えるにいたったのは、たんに組織原則の問題ではない。解散にいたった理由は、主として二つの観点から考えることができる。第一に、NAMが「地域通貨」を唱えながら、「地域」に向かう動きをまったく欠いていたことである。もう一つは、二〇〇一年に起こった9・11事件とイラク戦争に対応できなかったことである。これらは、たんに情勢認識の欠陥ではなく、理論上の欠陥として見なければならぬ。そこでは、資本に対抗する運動として、その内部での闘争(内在的闘争)と外部(超出的闘争)との闘争が区別され、そして、それらを同時的におこなうことが強調されていた。しかし、国家に対抗する運動という点では、国家の内と外の区別をめぐる認識が欠けていた。したがって、新しい「原理」において、私が追加した重要な項目は、プログラム(綱領)の(4)、およびその解説である。

(4) NAMはまた、国家の内と外、すなわち、小さな地域と大きな国際世界に向かう。いいかえれば、NAMは一方で地域の自治に向かい、他方で「世界共和国」(カント)を目指す。それらはいずれも、国家と資本を超える基盤となるものである。

すなわち、ミニマルな地域レベルでの運動と、国家を越える国際的レベル(具体的には国連)での運動を、それぞれ重視し、同時的におこなうこと。これは、二〇〇〇年の段階になかった視点である。これについては、新たに付した「解説」を参照されたい。

また、組織原則もこれにあわせて改定される。新たな原則は、NAMは「アソシエーションのアソシエーション」だということである。つまり、そのベースは小さいローカルな集団である。それは地域、関心、階層などによって形成される。これらのアソシエーションが「アソシエーションのアソシエーション」を形成する。後者は、各アソシエーションの代表者たちの協議によって運営される。この代表制を維持する原則は、「選挙とくじ引きの併用」である。